

兵庫教育大学大学院

学校教育研究科 社会系教育分野 学生募集の案内

社会科系教科のスペシャリストをめざして



世界に貢献できる人材育成をめざして

社会系教育分野は家庭、地域、学校、社会、世界をとりまく諸問題の解決をめざし、それを学問的に深め、実践することを目指している教育分野です。社会科教育、歴史、地理、公民分野に分かれ、教員が大学院生の研究したいテーマにあわせ、少人数で懇切丁寧に指導することを旨としています。ゼミは基本的に毎週1回行われ、大学院生は最初修士論文のテーマを決めるために先行研究を読み、レジュメを作成して発表します。テーマが決定すれば、それに関連した資料分析を行うなどして修士論文を作成します。大学院生の作成した修士論文は学界において貢献しているだけでなく、社会・世界をとりまく問題解決にも貢献しています。

また、社会系大学院生には現職教員、学部卒のストレートマスターのみならず、留学生も多く所属し、お互いに助け合い、交流しあい、和気藹々と研究を行っており、まさしく多文化・異文化理解教育を実践しています。さらに、高い教員就職率を誇る学部学生との交流がストレートマスターの就職意欲を高めています。

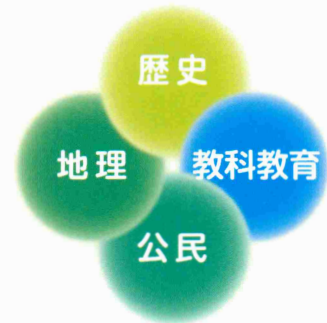
我が社会系教育分野で立派な修士論文を作成し、社会に貢献できる人材、世界で活躍できる人材を目指してください。

社会系教育分野長 吉本剛典

幅広い専門領域

社会系教育分野は、歴史・地理・公民・教科教育の4つの分野に分かれ、指導教員は合わせて13名です。その専門領域は、教育学部のほか、文学部・法学部・経済学部・社会学部などいくつもの学部にもわたるほど幅広いものです。

したがって、学生にとっては、研究テーマの選択肢がきわめて多いということになります。



●学部の研究テーマを生かした研究が可能

教育大学の大学院ですが、研究テーマは教育にかかわるものに限る必要はありません。

人文・社会科学系学部の卒業生は、学部の研究テーマを深める形で研究を進めることができます。

学部で修得した専門性を基礎に教科教育を研究することや、指導教員との相談の上でまったく新しいテーマを選ぶことも自由です。



●小人数ゼミで丁寧な指導

社会系教育分野は、院生総数40名に対して、指導教員13名で、指導教員1名あたりの学生数は約3名となります。指導教員の決定については、原則として学生の希望を尊重しますが、今年度の修士1年の場合、同一ゼミへの所属は4名が最多です。丁寧な論文指導が社会系教育分野の特徴です。



指導教員

■歴史分野

河村 昭一 (日本史)
原田 誠司 (日本史)
松田 吉郎 (東洋史)

■地理分野

吉本 剛典 (人文地理)
南埜 猛 (地誌学)

■公民分野

坂口 一成 (法学)
難波 安彦 (経済学)
首藤 明和 (社会学)
森 秀樹 (哲学)

■教科教育分野

米田 豊 (社会科教育)
關 浩和 (社会科教育)
原田 智仁 (社会科教育)
吉水 裕也 (社会科教育)



●さまざまな形で論文作成のサポート

指導教員が決まると、その教員のもとで修士論文に向けた研究が始まります。専門領域の近い教員からも、日常的に指導が受けられます。

そして、4つの分野単位で開かれる修士論文中間発表会では、分野内の教員・学生が全員集まって、ときには他分野からも出席して、論文の進捗状況や方向性、問題点をみんなで検討し、必要な助言をします。

論文を仕上げたときに、この発表会のありがたさがわかります。



●充実した研究設備

社会系教育分野には、大学院生研究室が4部屋あり、24時間利用できます。また、各研究室には、学内LANを通じて自由にインターネットに接続できる環境が整備されています。



●教員を中心とした多様な進路

ストレートマスターの主要進路は教員です。公務員や民間企業に就職する人もいます。また、他大学の博士課程に進学する人もいます。

◆平成13～22年度修了生(ストレートマスター)の進路 ※臨時任用を含む

教員	65名
公務員	1名(明石市役所)
教育財団	2名(山口県大島青年の家、西脇市青少年センター)
民間企業	9名
進学	8名(大阪大学、大阪市立大学大学院博士課程、首都大学東京博士課程、兵庫教育大学大学院博士課程等)

この他、修士1年で教員に就職した者が2名(ともに兵庫県)います。

※教員は私立4名を含む

私たちといっしょに学びませんか！

日本人と一緒に頑張りましょう！

私は日本に来て4年目になります。本当にあっという間でした。初めて日本に降り立った時の情景は、今でも眼前に浮かびます。異国の言語は想像したよりはるかに難しかったです。言いたい事を相手に伝えられないことはどれほど辛いことか、寂しいことか、その時実感しました。今修士2年生である私は以前と変わらず勉強に専念しています。この学校にすっかり慣れ、毎日充実な学校生活を送れるのは先生のおかげです。日本の方々の優しさ感動し、心の奥から感謝しています。

去年東日本大震災が起き、困難な状況に負けず頑張り日本国民の姿から人生の素晴らしい授業を受けたように思います。私たち留学生も日本の住民として、日本の皆さんと一緒に困難に向き合って生きていきたい気持ちでいっぱいです。私は日本人だからこそ、この困難を絶対に乗り越えたいと信じています。

「感謝の気持ち」を持ちながら、留学生の皆さん、日本人と一緒に頑張りましょう！

(譚 双双さん、中国出身留学生)

理論と実践の融合を目指して

大学院に入学した当初、先生方が講義の中で、日頃学校現場で普通に思っていること、当たり前前に思っていることをもう一度振り返り、再評価・再構成していくことが大切であると述べられていたのが、とても印象に残っています。

現職教員にとっての大学院は、これまでの自分の授業実践を、最先端の教科教育の理論や社会諸科学の成果を結びつけて体系化し、理論と実践の融合を目指していく場だと考えています。このことは、「社会科・地歴公民科を通してどのような生徒を育てたいのか」というその後の研究にも、強く反映されています。

社会系教育分野では、学校現場を離れて研究に専念できるのと同時に、教員を目指す若者たちや海外からの留学生、それに校種の異なる現職の先生方と議論を重ね、交流を図ることができるため、有意義な時間を過ごすことができます。大学院での研究成果を学校現場に生かせるよう、今後も努力していきたいと考えます。

(坂本 亮さん、鹿児島県立末吉高等学校教諭)

～大学院生からのメッセージ～

ぜひ社会系教育分野に進学を

私は本学の学部時から社会系に所属し、今年で6年目になります。学部を卒業する時に教師として現場に出るか迷いましたが、社会系という素晴らしい環境でもっと学びたいと思い大学院に進みました。

大学院では同年代のストレート学生はもちろん、現場でつい最近まで教えていた現職教員の方々と一緒に学ぶことができます。これから教師を目指す我々の良い見本として、様々なことを吸収することができます。講義に関しては日本史・世界史・地理・哲学・経済学・社会学・法学などの更なる専門知識を習得し、社会科教育の理論を学び現場で生きた実践を追求することができます。

ゼミに関しても、指導教員の先生はとても熱心で、私たち以上の熱意と圧倒的な知識で研究をサポートしてくれます。学部時代の研究をさらに深めるにしろ、大学院になってまったく新しい研究を始めるにしろ、先生方は常に私たちの指針になってくれるでしょう。

将来社会科の教師になるうえで、更なる知識と理論を学びたい人は、来年社会系で待っています。

(齋藤 俊太さん、岐阜県出身)

入試情報

【8月選抜】

- ◎出願期間 平成24年 7月12日(木)～20日(金) [必着]
- ◎筆記・口述試験 平成24年 8月18日(土)
- ◎合格者の発表 平成24年 9月 7日(金) 10:00～

【11月選抜】

- ◎出願期間 平成24年 10月11日(木)～19日(金) [必着]
- ◎筆記・口述試験 平成24年 11月17日(土)
- ◎合格者の発表 平成24年 11月30日(金) 10:00～

【3月選抜】

- ◎出願期間 平成25年 2月 7日(木)～15日(金) [必着]
- ◎筆記・口述試験 平成25年 3月 2日(土)
- ◎合格者の発表 平成25年 3月15日(金) 10:00～

問い合わせ先

- 入試全般に関して 〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
兵庫教育大学入試課
Phone : 0794-44-2067 Fax : 0795-44-2069
e-mail : office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp
U R L : <http://www.hyogo-u.ac.jp>

- 社会系教育分野に関して 〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
兵庫教育大学社会系教育分野
Phone&Fax : 0795-44-2160
e-mail : namba@hyogo-u.ac.jp

ホームページ

<http://www.soc.hyogo-u.ac.jp/shakai/index.html>

交通アクセス

大阪・三宮・明石・姫路より公共交通機関を利用して、約1時間30分
(詳しくは大学のホームページをご覧ください。)

